

京セラ株式会社 2020年3月期 第3四半期 決算カンファレンスコール
(2020年1月30日実施)

代表取締役社長 谷本 秀夫 スピーチ

<1. (中表紙) 2020年3月期第3四半期 決算概要>

<2. 2020年3月期第3四半期累計 決算概要>

当期の売上高は、M&Aによる増収貢献が約500億円あったものの、中国景気減速の影響等により部品需要が減少したことを主因に、第3四半期累計として過去最高を更新した前年同期にわずかに及ばず1.4%減少の1兆1,969億円となりました。

利益については、前年同期には構造改革に伴う費用約685億円を計上していましたが、当期はこの構造改革の効果もあったことから増益となりました。営業利益は343億円増加の949億円、税引前利益は375億円増加の1,416億円となり、2桁の税引前利益率を確保しました。

設備投資額は前年同期とほぼ同水準となりましたが、減価償却費は前期からの積極的な投資により、部品事業を中心に73億円増加しました。研究開発費は、みなとみらいリサーチセンターの設立等により64億円増加しました。

平均為替レートは、対米ドルは前年同期に比べ2円円高の109円、対ユーロは8円円高の121円となり、売上高は約300億円、税引前利益は約105億円押し下げられました。

<3. 2020年3月期第3四半期累計 事業セグメント別売上高>

「産業・自動車用部品」、「コミュニケーション」、「生活・環境」は増収となりましたが、「半導体関連部品」、「電子デバイス」、「ドキュメントソリューション」は減収となりました。

<4. 2020年3月期第3四半期累計 事業セグメント別利益>

利益は、「産業・自動車用部品」、「電子デバイス」、「ドキュメントソリューション」が減益となりましたが、「半導体関連部品」、「生活・環境」は、前期の構造改革により大幅に改善しました。次に、各セグメントの状況をご説明します。

<5. 2020年3月期第3四半期累計 事業セグメント別業績(1)>

上段の「産業・自動車用部品」はM&Aにより機械工具事業が増収となりました。一方、中国景気減速の影響などから、自動車向け部品や半導体製造装置用部品等の主要製品の売上が総じて減少しました。利益については、収益性の高い事業が減収となった影響に加え、中・長期的な増産対応に向けた設備投資やM&Aに伴う償却費の増加等もあり、減少しました。

次に下段の「半導体関連部品」は、光通信用セラミックパッケージの需要回復が見られたものの、中国景気減速等の影響により水晶及び SAW デバイス用セラミックパッケージや、通信インフラ向け有機パッケージなどの売上が減少したことから、セグメント全体で減収となりました。利益は、前期に有機材料事業の構造改革に伴う一時損失約 162 億円が計上されている一方、今期はこの構造改革の効果が寄与し、同事業が黒字化したことから増益となりました。なお、一時損失を除いたベースでの比較においても増益とすることが出来ています。

<6. 2020 年 3 月期第 3 四半期累計 事業セグメント別業績 (2) >

上段の「電子デバイス」は、主に AVX において世界経済の減速を受けディストリビューターでの在庫調整が継続していることに加え、自動車関連市場の需要停滞の影響もあり減収減益となりました。

下段の「コミュニケーション」は、情報通信サービス事業において、エンジニアリング事業の売上が増加しました。利益については、通信機器事業での原価低減等により採算が改善し増益となりました。

<7. 2020 年 3 月期第 3 四半期累計 事業セグメント別業績 (3) >

上段の「ドキュメントソリューション」は、前期に実施した M&A の貢献はあったものの、円高の影響を大きく受け、減収減益となりました。厳しい外部環境の影響はありましたが、生産工程の自動化等による生産性向上への取り組みや、原価低減などの内部努力により 2 桁の利益率を維持しました。

下段の「生活・環境」では、ソーラーエネルギー事業を中心に増収となり、事業損失は大幅に縮小しました。ソーラーエネルギー事業において、前期にポリシリコン原材料の長期購入契約に関する和解費用等約 523 億円を計上したことが損失縮小の主因ですが、これを除いても、増収及び原価低減により改善することが出来ています。なお、今期の事業損失は、新型リチウムイオン蓄電池の開発費用等の増加が主因です。

以上が第 3 四半期累計の説明です。次に、業績予想についてご説明します。

<8. (中表紙) 2020 年 3 月期 業績予想>

<9. 2020 年 3 月期 業績予想>

本日通期業績予想を修正しました。依然として世界経済の不透明感は継続しており、自動車関連や産業機械市場向け製品の需要は第 4 四半期も低調に推移し、大幅な回復は見込めないことなどから、売上、利益ともに見直しました。

売上高は 750 億円、営業利益は 220 億円、税引前利益は 150 億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は 80 億円の下方修正となります。あわせて、対米ドルの想定為替レートを 108 円に見直しました。設備投資額についても進捗を踏まえ修正しています。

<10. 2020 年 3 月期 事業セグメント別売上高予想>

売上高については、全てのセグメントで修正しました。

<11. 2020 年 3 月期 事業セグメント別利益予想>

利益については、「コミュニケーション」を除く全てのセグメントを修正しました。

<12. 2021 年 3 月期の事業環境見通し>

最後に、2021 年 3 月期の事業環境見通しについてご説明します。来期には半導体市場の回復が見込まれると共に、5G 関連製品の需要増が期待されます。当社は来期の業績拡大に向けて、現在 5G の基地局や端末向け製品の生産能力の増強と、新製品の展開を進めています。

「産業・自動車用部品」では、宇部興産(株)との合弁で、基地局用フィルターを手掛ける新規子会社を 2019 年 12 月に設立しました。来期には量産をスタートする予定です。

「半導体関連部品」では、光通信用に加え、水晶・SAW デバイス用セラミックパッケージの需要の増加が見込まれます。また、有機パッケージや基板については基地局向けに売上拡大を図ります。

「電子デバイス」では、MLCCに加え、水晶製品の需要が基地局向けに増加しています。来期には端末向けの需要増も見込まれており、さらなる増産対応を図ります。

「コミュニケーション」では、5G 関連の様々な製品を開発しており、来期には 5G スマートフォンの投入を図ります。また、通信基地局の設置工事に関しても、通信エンジニアリング事業の拡大を予想しています。

これら 5G 関連事業の積極展開により、来期の業績拡大を加速してまいります。

以上

将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての 2020 年 3 月期第 3 四半期決算カンファレンスコール開催日 (2020 年 1 月 30 日開催) 時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。